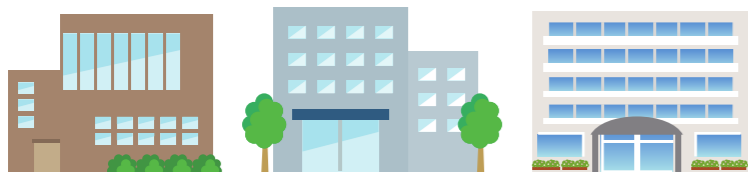


※この特集でいう「公共施設」は、道路、橋りょう、上下水道等のインフラ資産を除いた、学校やコミュニティセンターなどの公共の建物のこととします。



### 公共施設の老朽化

全国の自治体で今、公共施設の老朽化が問題になっており、本市も例外ではありません。原因は、高度経済成長期に建設された施設の大規模改修や建替えを同時期に迎えるためです。

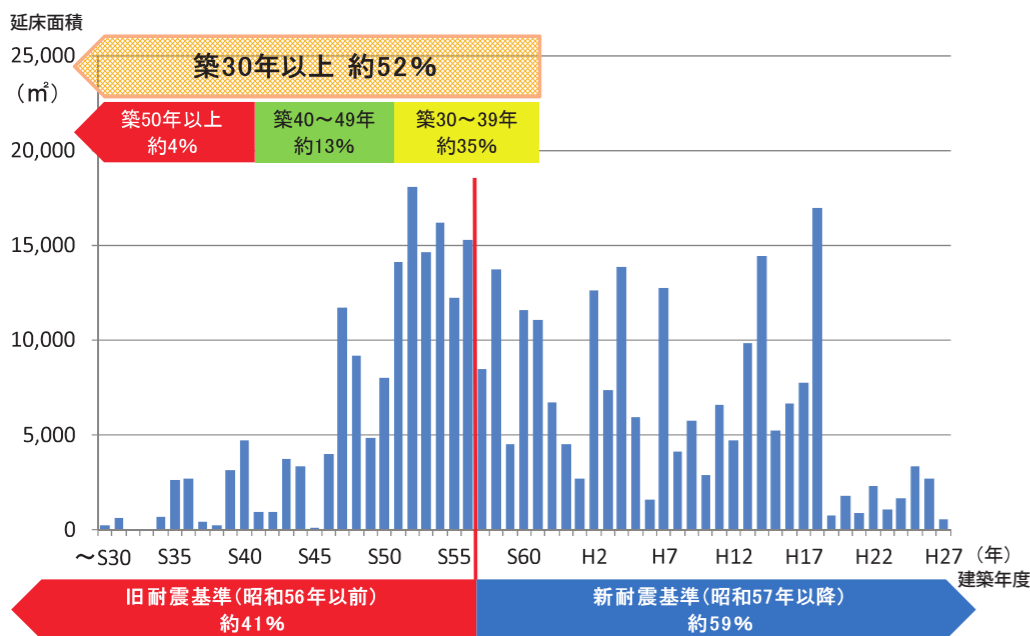
本市も、合併前の旧町それぞれで整備された多くの公共施設が老朽化し、大規模改修や建替えを行わなければならない時期に差しかかっています。

昭和50年代が建設のピークで、築30年以上経過した公共施設は延床面積ベースで約52%を占めており、老朽化が進んでいます。(図2)

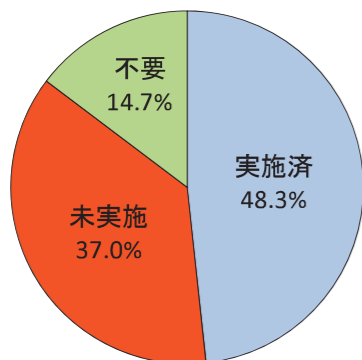
建設のピークであった昭和50年代の後半に旧耐震基準から新耐震基準に変わり、旧耐震基準時代に建設された公共施設は全体の約41%、そのうち耐震補強が未実施の施設は約37%です。(図3)

※旧耐震基準時代に建設された小中学校はすべて耐震補強済みです。

■建築年度別延床面積(図2)



■旧耐震基準時代に建設された公共施設の耐震化状況(図3)



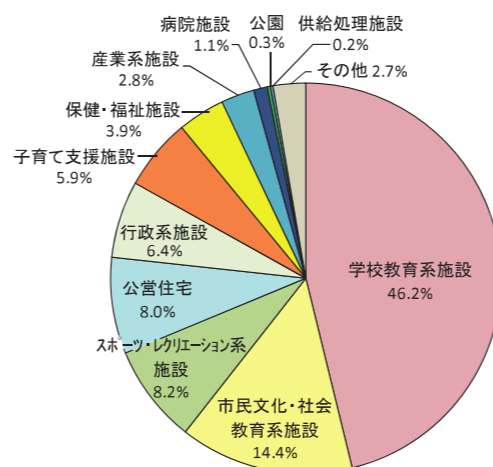
※不要：耐震診断の結果、耐震補強が不要であった建築物



### 公共施設の数や分類

本市の公共施設は、平成26年度末で405施設、延床面積は約37万700平方メートルあります。そのうちの約46.2%は学校などの教育施設となっています。(図1)

■施設分類別延床面積比(図1)



学校やコミュニティセンター、病院や公園などは、市民の皆さんの大切な財産です。現在、市内にある数多くの公共施設は老朽化が進み、維持管理の「これから」が問題となっています。

市の取り組みや計画をお伝えし、市民の皆さんとともに公共施設の「これから」を考えていきます。

# 公共施設はみんなの財産

「オール甲賀で「これから」を考えます」

